

沖田畷古戦場跡

この石柱は「沖田畷（おきたなわて）の戦い」の戦場跡に立っています。1582年、肥前国（現在の長崎県・佐賀県）の大名だった龍造寺隆信（1530-1584）は、領地の拡大を求めて島原に侵攻しました。島原の大名有馬晴信（1567-1612）は、薩摩国の大名島津義久（1533-1611）に援軍を要請しました。1584年、島津は弟の島津家久（1547-1587）に軍の指揮を任せました。龍造寺隆信の2万5千の軍勢は、数の上では圧倒的に優位だったものの、有馬・島津軍は戦場の複雑な地形を熟知していました。また、有馬・島津軍は、1579年にキリスト教に改宗した有馬晴信がイエズス会から入手したポルトガルの武器を装備していました。1584年5月4日の沖田畷の戦いで、龍造寺隆信は討ち死にし、龍造寺軍は敗れました。この勝利に不可欠な役割を果たしたイエズス会（またはイエズス会の提供した武器）に感謝の意を表して、有馬晴信はイエズス会に浦上地域を割譲しました。浦上は現在長崎市北部の一部となっていますが、今日でもキリスト教の砦であることに変わりはありません。